

【65用語】

満載（まんさい）… いっぱいに詰め込むこと

名状（めいじょう）… 状態を言い表すこと

主脳（しゆのう）… 主要な部分、主眼

随意（ずい）… 束縛や制限を受けないこと、自分の心のまま

知己（ちき）… 自分の心をよく知っている人、親友、または知人

任意（にんい）… 心のまま、その人の自由意思にまかせること、随意

安息（あんそく）… やすらかに休むこと、休息すること

慰問（いもん）… 慰めのために伺うこと

適宜（てきぎ）… その場面・状況にぴったり合うこと、適當

呆然（ぼうぜん）… 気抜けしてぼんやりした状態、あつけにとられる様

心神（しんしん）… ころ、精神、魂

支弁（しべん）… 取り計らい、金銭の支払い

【65解説】

大正十二年（一九二二）九月一日、関東全域にわたって大地震が発生し、群馬県内でも被害があったが、とりわけ東京・横浜の京浜地区は、家屋の倒壊と火災で焼土と化し、多数の死傷者を出す一方で、多くの避難民が一斉に地方へなだれ込んできた。これに対して本県は、翌九月二日避難民の救援活動と東京の罹災者救援のため救護団を組織し、義捐金品の募集を開始した。

また県内の各都市においても、青年団員・在郷軍人分会・消防組員など、各種団体による救護班の被災地への派遣、あるいは県内避難者に対する救護活動などを広範囲に展開した。本文書は、大震災から十一日後、県内で最も避難者数が多かった高崎市から県の内務部長に対し、避難者の救護状況やその費用の支出方法などを報告した時のものである。ちなみに、県内への避難者は全体で四万二七七三名にのぼったとされる。ほかに県内を通過するだけの避難者もあったが、その受け入れや駅での救助活動も積極的に行われた。